

科目	専攻科ゼミナールI (Advanced Course Seminar I)		
担当教員	小林 洋二 教授, 林 公祐 講師, 石崎 繁利 准教授, 中辻 武 教授		
対象学年等	機械システム工学専攻・1年・前期・必修・2単位		
学習・教育目標	B4(40%) C2(60%)	JABEE基準1(1)	(d)2-a,(d)2-b,(d)2-c,(e),(f),(g)
授業の概要と方針	機械システム工学のうち、潤滑・機械設計、システム工学、熱・流体、計測の分野に関連する外国語文献を輪読する。文献をパートに分け、学生は割り当てられたパートの内容を説明し、考察を述べるとともにゼミナール形式で討論を行う。前述した分野の知識や考え方を理解するとともに、関連する文献を自ら調査することにより自発的に学ぶ姿勢を身につける。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【B4】 機械システム工学関連の英語文献を読解できる。		機械システム工学関連の英語文献の読解能力を各分野の担当者ごとにプレゼンテーション、試験、提出課題(レポート)で評価する。
2	【C2】 複数の分野の文献を読むことで機械システム工学の広い分野における知識や考え方を理解する。		機械システム工学の潤滑・機械設計、システム工学、熱・流体、計測分野における知識や考え方の理解度を各分野の担当者ごとにプレゼンテーション、試験、提出課題(レポート)で評価する。
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、レポート22%、小テスト49%、プレゼンテーション29%として評価する。上記の総合評価は、各担当教員がレポート、小テスト、プレゼンテーションによって評価を行い(履修上の注意事項の欄を参照のこと)、それぞれの点数を開講時間数により加重平均したものである。総合評価を100点満点で算出し、60点以上を合格とする。		
テキスト	プリント		
参考書	「工業英語入門」：A.J. ハーパート(創元社) 「数学 英和・和英辞典」：小松勇作 編(共立出版) 「走査型トンネル顕微鏡」：御子柴宣夫(電子情報通信学会)		
関連科目	英語、英語演習、工業英語、卒業研究、専攻科特別研究		
履修上の注意事項	英語、英語演習、工業英語で学んだ語彙、英文法、専門知識を基本に英語文献を講読する。なお、評価における各担当教員の試験、レポート、小テスト、プレゼンテーションの内訳はつぎのとおりである。中辻(小テスト：80%、プレゼンテーション：20%)、小林(レポート：20%、小テスト：50%、プレゼンテーション：30%)、石崎(小テスト：100%)、林(レポート：50%、プレゼンテーション：50%)		

